

営業・保守支援システムとして Google Maps で “All on Maps” を構築。 年間数千万円に上るコスト削減を実現！



FUJITEC

フジテック株式会社

〒522-8588
滋賀県彦根市宮田町 591-1
www.fujitec.co.jp

エレベーター、エスカレーター専門メーカー。動く歩道や新交通システムなども手掛ける。国内の本社や研究開発、生産拠点のほか、20以上の国と地域に拠点を持つ。ホテル、オフィスビル、マンション、駅、商業施設、公共施設など数多くの納入実績があり、特にシンガポールや香港で高いシェアを誇る。

国内外で数多くのエレベーター・エスカレーターを稼働させている、フジテック。Google Maps を活用し、“All on Maps” をコンセプトに、営業・保守スタッフにとってあらゆる社内情報ポータルとなる支援システムを構築した。これによる業務効率化で、年間数千万円に上るコスト削減を実現させている。

(写真右) 執行役員 情報システム部長
友岡賢二氏
(写真左) 情報システム部 主務
三木治雄氏

課題と効果

課題

1

従来の地図情報は PC でしか使えず、拡大縮小もできなかった。また、外出時は地図を印刷する手間がかかっていた

効果

1

動的な地図の上に、ルート検索やストリートビューによる現地状況の把握など、よりスムーズに行動できるように

課題

2

世界 20 カ国以上に拠点展開している企業でありながら、従来の地図情報は日本地図のみ。地図情報の陳腐化という問題も

効果

2

全世界をカバーする Google Maps で構築したシステムをグローバルに展開可能となった

課題

3

地図以外の業務に必要な情報にアクセスするため別途ノート PC を持参する必要があり、煩雑であった

効果

3

モバイルデバイス 1 つさえあれば業務に必要な社内のあらゆる情報にアクセスし、無駄な時間を削減できるように

何が問題だったか？

オフィスでしか使えない地図を印刷して持参

世界の様々な国々にエレベーター・エスカレーターを納入しているフジテック。メンテナンスを手掛けるサービススタッフは、システムで管理されたスケジュールに従って日々、業務を手掛けている。そのメンテナンス現場を検索する従来の地図情報システムは 13 年前に導入されたもので、動かし難く、拡大縮小ができない静的なものであった。地図情報の陳腐化や稼働スピードが遅いという問題もあった。かつ、オフィスのパソコンでしか使えなかったために、サービススタッフはプリントアウトして作業現場に向かっていたのである。しかも、世界 20 カ国以上に事業展開しているにも関わらず、日本地図に限定されたものであった。「その現場に行き慣れた人なら別ですが、初めて行くような場合、す

ぐにわかるものでもありません。そこで、社用車に乗ってからスマートフォンや携帯電話のナビゲーションアプリを立ち上げてルートを調べなければならぬといった手間がかかっていました」と執行役員情報システム部長の友岡賢二氏は打ち明ける。また、メンテナンスや営業に必要な仕様や部品、図面、改修履歴、営業履歴などの情報は、別途ノート PC を持参してアクセスしていた。



2014 年に入社し情報システム部長に就任した友岡氏は、その現状を知るや早速システム化による改善の検討に着手する。

どのように検討したか？

API で自社システムと容易に連携できる点を評価



「当初から Google Maps が念頭にありましたが、ひとまず無償のものなどほかの地図情報サービスも検討してみることにしました」と情報システム部主務の三木治雄氏は言う。そこで、Google Maps を含め代表的ないくつかのサービスを試した。

「ストリートビューや経路検索などの機能が揃っている上に、API も非常に充実しています。さらに、グローバル性も申し分ありません。ほかの地図情報サービスとは圧倒的な差がありますね」と三木氏は評価する。友岡氏も、Google Maps が API により自社システムと容易に連携できる点を以前から高く評価していた。

「作業対象のエレベーターなどは ID が付与されていますが、その ID で場所がわかるスタッフはほとんどいません。しかし、『駅前のあのビル』と現物で言われればすぐに場所がわかります。そこで、地図をベースに外回りを基本とする営業やサービススタッフの支援システムを作ろうと考えました。このシステムは地図をベースとした“アプリランチャー”であり、そこからあらゆる社内情報にアクセスできる“ All on Maps ”のシステムです。そのためには、API の充実が不可欠だったのです」

2015 年 6 月に Google Maps のライセンスを購入し、プログラミングの心得がある三木氏が開発に着手。同年 8 月にプロトタイプをリリースし、ユーザーの意見を取り入れながら改修を重ね、完成度を高めていった。

どんな効果があったか？

“ All on Maps ” で年間数千万円の業務効率化

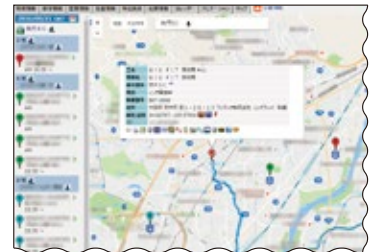
出来上がった営業・保守支援システムは、地図上に同社の納入した物件をアイコンで表示し、それぞれのアイコンから担当者、営業、仕様、部品、工務、保守、図面、技術資料など基幹システム上の情報と相互に連携できる UI / UX となっている。アイコンの色や形状を変えることにより、システムの利用者が一目でそれぞれに必要な業務内容を識別できるように工夫している。

まずは、モバイルデバイス 1 つあれば業務に必要なあらゆる情報にアクセスできるようにする。さらに、ストリートビューや航空写真により目的地の詳細な状況を事前確認できるようになった。「車はどこに止められるのか、その建物はどこから入れるのかといったことが事前にわかり、スムーズな行動ができるようになりました」（三木氏）

さらに、Directions API による目的地までの経路表示機能や Places API による住所入力簡素化機能の実装により、格段に利便性が向上した。

BYOD によってスタートさせた後、営業とサービススタッフにスマートフォンを支給し、当該システムをフル活用していく。

1 年間の運用で、1 人あたり 1 日数分の業務を効率化できたとして、年間数千万円に上るコスト削減効果を確認。今後、「グローバルへの適用拡大」「GPS と連動したスタッフの動静管理」「災害情報との連携」「CRM との連携」といった角度から、さらに機能を拡充させるという。「災害情報との連携では、サプライチェーンへの影響も可視化させたい」と友岡氏。まさに“ All on Maps ”で格段の業務効率化を推進していく構えだ。



今回の導入プロダクト「Google Maps APIs」

Google Maps APIs とは API の集合体で、カスタマイズされた Google マップに独自のデータをオーバーレイすることができます。衛星画像、ストリートビュー、高度プロファイル、経路、スタイル付きの地図、ユーザー層、アナリティクス、場所の広範なデータベースを含む Google の強力な地図作成プラットフォームをご利用いただければ、優れたウェブアプリケーションとモバイル アプリを作成することができます。正確なグローバル カバレッジとアクティブな地図作成コミュニティによって日々更新されている Google Maps APIs を取り入れることで、ユーザーは継続的に改善されているサービスを活用することができます。

お問い合わせはこちらから
<http://goo.gl/FEpnXt>



Google Maps の詳細については、右記 URL もしくは QR コードからアクセスしていただくか、同ページ「お問い合わせ」よりお問い合わせください。
© Copyright 2016 Google
Google は、Google Inc. の商標です。その他すべての社名および製品名は、それぞれ該当する企業の商標である可能性があります。

